

令和7年度

### 大松小学校 「学力向上実行プラン」

#### 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを実現する子どもの育成

校長

学力向上推進員

#### 【小中連携における共通の取組】

学習のめあての提示・学習のふりかえりを徹底し、授業改善に努める。

#### 【各校の取組状況の把握について】

互いに授業参観しあったり、情報共有をしたりすることにより、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教師の支援を素直に受け入れ、手際よく問題解決することができる。 ●知識技能の定着に個人差がある。 ●一斉指導で話を聞くことに課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。(児童全体の8割以上) ・習得した知識・技能を他の学習や生活の場面で生かすことができる。	・朝活の時間を活用し、ミニテスト・プリントなどにより、反復学習を行い知識・技能の定着を図る。 ・ICTの学習アプリを活用し、個に応じた指導の充実を図る。 ・国語・算数のテストを活用し、学力達成状況を確認する。	・定着しにくい学習は、繰り返し復習したり、家庭学習に取り入れたりしながら、指導を継続して行う。 ・タブレットを活用した習熟度別学習を取り入れる。 ・ふりかえりの中で書いたことを生活に繋げようとする意識をもたせる。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている児童が全体の8割以上を達成した。 ・週末にタブレットを持ち帰らせ、家庭学習で活用している。 ・算数科におけるふりかえりを継続することで学習内容を生活と結びつけられる児童が増えた。	・引き続き、めあて・ふりかえりに一貫性をもたせた授業づくり取り組むとともに、タブレットの効果的な利用について検討し、知識・技能の向上に努める。 ・校内研修で、ICTのアプリの活用の仕方を教員で共有する。

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア活動等では、自分の思いや考えを伝え合うことができる。 ●自信がもてず、自分の思いや考えを、分かりやすく伝えることに課題がある児童が見られる。 ●要点を押さえて、友達の意見や発表を聞くことに課題がある。	・見方・考え方を働かせ、自分の思いや考えをもち、互いに伝え合おうとすることができる。	・スピーチテーマの年間計画を立て、1分間スピーチやペアトークの推進を図る。 ・学習形態(ペア・グループ)の工夫やタブレット・思考ツール等の活用により、自分の考えを分かりやすく伝える力を身に付けさせる。 ・読書を推進し、語彙力をのばし、表現力を豊かにする。	・タブレットの思考ツールを積極的に活用し、伝え合う力を育てる指導を工夫する。 ・教師や保護者による読み聞かせや週末読書の推奨など各学年の発達段階に応じて本にふれる機会を増やす。	・様々な学習過程においてタブレットやICT機器を活用した。また、高学年では、根拠を示しながら、自分の考えや意見を分かりやすく伝える際に、一つの手立てとしてパワーポイントなどでまとめた。 ・ペア・グループ活動や朝のスピーチを行うことで自分の考えや意見を伝えることができる児童が増えてきた。	・収集した資料や記録写真などを用いてそれらをもとに自分の意見を根拠づけ、話す機会を増やす。 ・様々な学習形態を取り入れ、話し合い活動の充実を図る。 ・今年度と同様、朝のスピーチ・読み聞かせなどを継続的に行う。

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○何事にも真面目に一生懸命取り組む児童が多い。 ●自ら課題を見つけたり、課題解決に向けて粘り強く取り組むことに課題がある。 ●積極的に取り組むことが難しい児童や学習規律が身に付いていない児童がいる。	・自分で課題を見つけ、自己調整しながら、課題解決方法を見つけることができる。 ・成長する喜びを前向きに受け止め、前より自分のことが「好き」と実感することができる。(全体の8割程度)	・学習のふりかえりを行うことで、自分の成長に気付かせる。 ・ふりかえりの内容や児童の変容の見取りを授業改善に活かす。 ・体験活動や異学年交流・こども園との交流を通して、自信をもち、様々な活動に取り組むようにする。	・学習を生活の中で生かしている児童を紹介し、価値付けを図る。 ・児童の発言から本時のめあてをもたせ、児童の思考に沿った授業展開を工夫する。	・ふりかえりを通して、自己調整力やメタ認知が高まり、自分の成長に気づき、目標もてる児童が増加した。 ・自分のことが「好き」と実感することができる児童が全体の約8割となり、少しずつ自己肯定感の高まりが見られる。 ・異学年交流・GTなど様々な人とのかわりにより、互いの良さに気付くことで他者受容が高まりつつある。	・日々の児童の成長を見取り、全体に共有し、価値付けを図る。 ・ふりかえりシート・評価指標を継続して活用する。 ・年度終わりに次年度の年間計画を見直し、6年間の成長を見通したカリキュラムマネジメントに取り組む。